

1 平成 20 年度千臨技血液検査精度管理

2 (1)血算について

3  
4 ○綿引一成(千葉県がんセンター) 古賀智彦(千葉  
5 社会保険病院) 澤田朝寛(順天堂大学医学部附属病  
6 院) 佐藤正一(千葉県循環器病センター) 柿沼豊  
7 (千葉市立青葉病院) 麻生裕康(千葉県がんセンタ  
8 ー) 大山正之(千葉大学医学部附属病院) 吉田隆  
9 ((株)サンリツ)

10  
11 【はじめに】現在使用されている自動血球計数装置  
12 は、以前に比べ機種間差が小さくなったといわれて  
13 いるが、依然として機種間差が認められるのが現状  
14 である。今年度も生血を用いて実施したサンプルサ  
15 ーベいの結果を集計し、解析したので報告する。

16 【方法】試料A、試料Bの2濃度を用いた。各施設  
17 で使用している自動血球計数装置を用いて白血球数、  
18 赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値、  
19 MCV、血小板数、白血球5分類について実施した。

20 【結果】今年度の参加は104施設であったが、試料  
21 の溶血・フィブリン析出がそれぞれ1施設ずつみら  
22 れた。血球計数の結果は、白血球数、試料A・CV  
23 18.0%、試料B・CV18.8%となり、バラツキがみら  
24 れた。その他の項目については、データの収束がみ  
25 られ良好な結果となった。白血球5分類の結果は、  
26 白血球数同様バラツキがみられた。

27 【まとめ】本年度は、昨年度までの抗凝固剤CPD  
28 液+EDTA(K2)ではなく、EDTA(K2)単  
29 独で使用した。白血球項目でバラツキがみられた原因  
30 としては、本サーベいは生血を使用していること、  
31 試料作製から測定まで約2日間要してしまうためサ  
32 ンプルの経時変化の影響などが考えられる。昨年度  
33 までは、ヘモグロビン濃度のみで評価を行っていた  
34 が、今年度は、バラツキのみられた白血球数・5分  
35 類を除く項目を評価の対象とした。今回のサーベ  
36 を集計するにあたり報告データの記入ミスや単位  
37 の間違い等が散見されることから、結果報告に関し  
38 ては注意をお願いしたい。

39 連絡先 043-264-5431